

国際シンポジウム

 「日・イラク外交関係樹立 80 周年記念」
関連イベント

メソポタミア文明の遺産を 未来へ伝えるために

歴史教育を通じた
戦後イラクの復興への挑戦

発表要旨集

2019年4月13日（土）

主 催

特定非営利活動法人 メソポタミア考古学教育研究所（JIAEM）
独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所（TNRICP）

後 援

外務省

駐日イラク共和国大使館

編集・発行：JIAEM・TNRICP



趣旨説明

このたび、特定非営利活動法人 メソポタミア考古学教育研究所（JIAEM）が、独立行政法人 国立文化財機構 東京文化財研究所とともに、国際シンポジウム「メソポタミア文明の遺産を未来へ伝えるために-歴史教育を通じた戦後イラクの復興への挑戦」を開催することとなりました。JIAEM は生まれて間もないため、伝統と実績のある東京文化財研究所との共同開催が叶ったことは大きな喜びでございます。まずは関係者各位に厚く御礼申し上げます。

JIAEM の事業方針の一つとして、現地イラクの研究者を招聘するという人的交流の促進があります。本シンポジウムでは、国際文化交流に貢献するための初事業として、イラク共和国から教育の専門家を2名招聘いたします。彼らの所属するズィー・カール大学は、南イラクのナーシリーヤに所在しており、まさにメソポタミア文明の生まれたシュメール地方にあります。

本シンポジウムは、まず、現地の大学生たちが、身近にあるシュメール地方のメソポタミア文明遺産についてどのように認識しているのか、メソポタミア文明についてどんなことを学びたいのか、といった声を聴くねらいをもっています。このこと自体、現地の若者たちの本音を知るうえで、意義のある試みとなります。

同時に、現地の大学教員たちからは、メソポタミア文明遺産を歴史教育に活用するにはどうしたらいいのか、どうやって歴史教育を人材育成に活用できるのか、といった意見を引出す目的もあります。

そして、現地の学生や教員たちが、JIAEM のような民間組織に期待している支援の中身を探り、政府機関への要望との違いをあぶり出しつつ、戦後イラクの復興において、歴史教育を通して日本人がどのように挑戦していけるのかを試論していきます。

ご来場いただくみなさまにとって、新しい出会いの機会、稔りある場となることを心より願っております。今後とも、JIAEM の活動にご理解、ご支援を賜りますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

2019年4月13日

特定非営利活動法人 メソポタミア考古学教育研究所
代表理事 小泉 龍人

国際シンポジウムの開催にあたり

このたび、独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所は、特定非営利活動法人メソポタミア考古学教育研究所（JIAEM）とともに、国際シンポジウム「メソポタミア文明の遺産を未来へ伝えるために－歴史教育を通じた戦後イラクの復興への挑戦」を開催することとなりました。本シンポジウムのゲストとして、イラクのズィー・カール大学からお二人の研究者をお招きできたことを大変嬉しく思います。

東京文化財研究所文化遺産国際協力センターは、文化遺産の保護分野で国際協力を行う組織として、イラクに対しても支援を行ってきました。2003年にアメリカ軍がイラクに進攻した混乱に乗じて、バグダッドのイラク国立博物館が心ない人々の手によって襲撃され、1万点を超える貴重な収蔵資料が掠奪されるという事件が起きました。当センターのイラク支援活動はこの事件を契機に開始され、ユネスコ日本信託基金および運営費交付金を通じてイラク国立博物館の復興に必要な機材等を提供するとともに、2004年から2010年にかけては毎年イラク人の保存修復家を日本に招聘して人材育成事業を実施しました。

しかし、東京文化財研究所の研修が終了した後も、不幸なことにイラクの文化財の受難は続いています。2015年には、IS（自称「イスラム国」）が偶像破壊の名のもとにモースル国立博物館に侵入して展示・所蔵されていた石彫品を徹底的に破壊しました。また、新アッシリアの王都ニムルドにも侵入し、神殿址や王宮址、ジグラットなどを爆破・削平するという暴挙に及んでいます。

本国際シンポジウムは、イラク国内で依然どのような課題があり、いかなる支援が望まれているのかを把握することを目的としています。今回の成果が、今後の国際協力の進展と望ましいイラク復興にとっての一助となることを心より願っております。

2019年4月13日

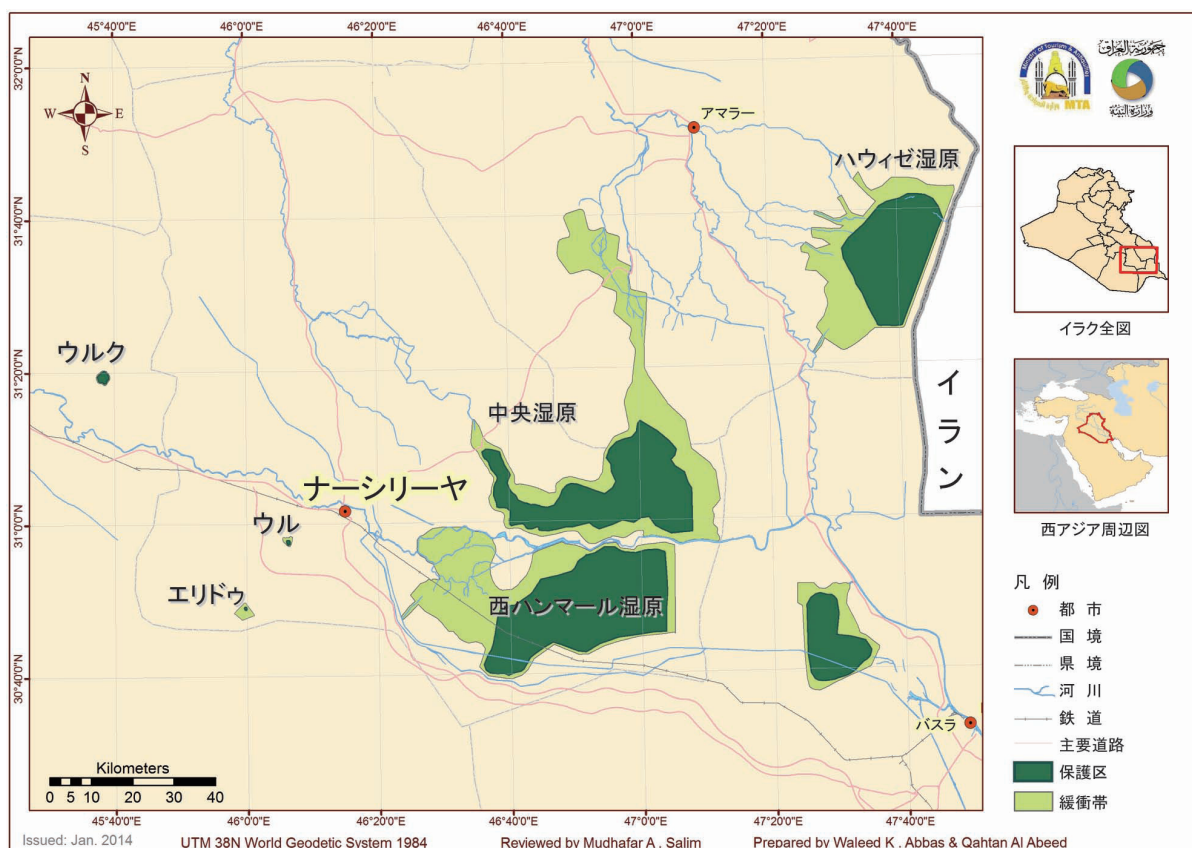
独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所
文化遺産国際協力センター長 友田 正彦

日・イラク外交関係樹立 80 周年記念ロゴマークについて



JAPAN - IRAQ RELATIONS ANNIVERSARY

日本とイラクは、2019年に外交関係樹立80周年を迎えます。この友好年の準備として、ロゴマークの公募を行いました。88点に上る応募の中から、イラク人留学生のヌールディーン・アリー・サイード (Nooruldeen Ali Saeed) さんの作品が最優秀デザインに選ばれました。ロゴマークは、日本の心を象徴する桜とイラクの歴史や信頼性を象徴する椰子の木を組み合わせ、80年もの長期にわたり世代を超えて育まれてきた両国の関係を表現したものです。なお、岩井文男駐イラク日本大使(当時)、ハリール・ムーサウィー駐日イラク大使が審査員を務めました。サイードさんは「自分のデザインが80周年を代表するものとして選ばれ、大変光栄に思います。両国のために、あらゆる分野で関係が深まることを期待しています。」とコメントしました。ロゴマークは、これから2019年11月までの間、周年事業に関するあらゆる場面で使用されます(在イラク日本大使館公式ホームページ https://www.iraq.emb-japan.go.jp/itpr_ja/00_000093.html より)。



プログラム

- 主催 特定非営利活動法人 メソポタミア考古学教育研究所 (JIAEM)
独立行政法人 国立文化財機構 東京文化財研究所 (TNRICP)
- 後援 外務省、駐日イラク共和国大使館
- 日時 2019年4月13日(土) 10:00～17:00
- 会場 東京文化財研究所セミナー室 (定員 120名)
- 題目 メソポタミア文明の遺産を未来へ伝えるために
-歴史教育を通じた戦後イラクの復興への挑戦
- 趣旨 シュメール地方(南イラク)のメソポタミア文明遺産を現地の教員や若者がどのように認識しているのか、彼らがどんな教育支援を期待しているのかといった声に耳を傾け、戦後イラクの復興における歴史遺産の保護や、文化資源を活用した人材育成への日本人の関わり方を論ずる。
- (発表者・内容は変更の場合もあり得る)
- 10:00 開会挨拶：齊藤 孝正 氏 (東京文化財研究所 所長)
趣旨説明：小泉 龍人 氏 (JIAEM 代表理事)
- 10:10 基調講演：ハリール・アル・ムーサウィー 氏 (駐日イラク共和国大使館 特命全権大使)
- 10:30 発表1：小泉 (JIAEM)
メソポタミア文明遺産の現状と課題
- 10:50 発表2：安倍 雅史 氏 (東文研文化遺産国際協力センター 研究員)
東京文化財研究所による西アジア文化遺産保護支援事業
- 11:15 発表3：小口 裕通 氏 (国土舘大学イラク古代文化研究所 所長)
日本の研究機関によるイラク調査の意義と成果
- 11:40 昼 食
- 13:10 発表4：増淵 麻里耶 氏 (京都造形芸術大学芸術学部 専任講師)
文化財保護のための教育と人材育成の重要性
- 13:35 発表5：ナイーム・アルシュワイリー氏 (ズィー・カール大学人間教育学部 学部長)
教員から見た南イラクの教育現場の実状と課題
- 14:15 発表6：イマード・ダワード氏 (ズィー・カール大学人間教育学部 教授)
ズィー・カール大学の学生たちの教育支援に対する要望
- 14:55 発表7：榊原 智之 氏 (JIAEM 理事、(株)エル・コーエイ)
考古学教育支援の在り方について
- 15:20 休 憩
- 15:30 討 論
- 17:15 閉会挨拶：小泉 (JIAEM)
-
- 17:30 イブニング・セッション：東文研地下ホワイエ (セミナー室前ロビー)